



—昭和大学歯科病院の理念—

患者本位の医療
先進医療の推進
良き歯科医師の育成

発行責任者 病院長 岡野 友宏
編集責任者 広報委員長 高橋 浩二
〒145-8515 東京都大田区北千束2-1-1
TEL 03-3787-1151(代表)

ホームページ: <http://www10.showa-u.ac.jp/~denthp/index.html>

8020最新情報

歯周病科 科長 山本 松男

8020という言葉を目にしたことがありますか？先日発表された統計結果では、75歳から84歳までの26.8%の方がご自分の歯を20本以上有しているという結果です。

「8020」とは、80歳でご自分の歯が20本以上残っていて、何でも噛んでおいしく食べることのできる一つの目安です。8020推進財団が「80歳になっても自分の歯を20本以上保とう」という標語を掲げています。この80歳で20本の歯という目標は、「健康日本21」という提言の中で掲げられました。「健康日本21」は、健康増進法に基づく国民の健康増進の総合的で具体的な推進計画です。生活習慣病およびその原因となる生活習慣などについて、9分野(栄養・食生活、身体活動と運動、休養・こころの健康づくり、たばこ、アルコール、歯の健康、糖尿病、循環器病、がん)に対しての目標と対策などが盛り込まれました。

歯の健康という点では、歯磨きなどの日常生活習慣により大きく影響を受ける「歯周病」が注目されました。30歳代半ばまでの抜歯原因の1位はむし歯です。しかし、40歳以降では順位交代して歯を抜く原因の1位は歯周病になります。このように、年代によって歯の健康を脅かす病気の主役は変わります。では、国民の口腔・歯の健康の具合は、具体的にはどのように変化してきているのでしょうか。

平成21年11月に満1歳以上の人を無作為に抽出した「国民健康・栄養調査」が実施され、その結果が先日厚生労働省より発表されました。5年前の調査(平成16年国民健康・栄養調査)に比較して、歯の健康具合は大変向上しているという結果が示されました。75歳から84歳までの方で、ご自分の歯を20本以上有する方の割合は26.8%で、5年前の調査に比較して3.8%増加。40歳以上を対象とした「自分の歯は何本ありますか？」という問いに対して40歳代93.8%、50歳代80.9%、60歳代64.1%、70歳以上29.6%と、どのグループでも1-2.4%ほど

改善しています。自己申告に基づいた「進行した歯周炎の状況がある」という割合も40歳以上のすべてのグループで減少していました。一方で、「歯科健診を受けたことがある」「歯石除去・歯面清掃を受けたことがある」という方の割合は増加し、歯の健康に対する関心が強まる傾向にあると思われれます。



以上のように最近の状況は大変喜ばしいことなのですが、一つ注意したい点があります。口腔内に残っている歯が20本あったからといって、すべて健康であるとは限らない点です。何でも噛めて、食を楽しむには「歯が健康な状態」であることが欠かせません。お年を召されると、それだけ長い期間食べ物を噛んできたわけですから、すり減りもあるでしょう。年齢とともに、唾液に含まれる抗菌物質の量も減少するといわれ、むし歯になりやすい傾向が強まることも報告されています。しかし、何も慌てる必要はありません。歯科健診や歯面清掃を定期的に行うことで、病気の進行を防ぎ、早期発見早期治療でずいぶんむし歯や歯周病の進行は防げるものなのです。

我が国が誇る国民皆保険制度は疾病保険です。つまり病気になったら治すことを主眼に設計されています。歯科治療の材料も技術もめざましい進歩をしています。でも、今一度考えていただきたいことがあります。それは「病気にならないこと」です。むし歯や歯周病にかかったら治すのではなく、患わないように心がけを強くすることです。できるだけ歯の手入れをして病気を防ぐ。そして、万一病気になったらすぐに手当をする。昭和大学歯科病院の職員一同、皆様のお口の健康を維持するお手伝いに、全力で取り組みたいと考えています。

歯周病科 紹介

歯周病は紀元前13世紀には既に存在しており、日本においても、弥生時代には存在していたことが確認されています。しかし歯周病の原因や治療方法が確立されたのは20世紀のことで、原因は口の中に存在する歯周病細菌であることが判明し、治療には、細菌の除去、いわゆるプラークコントロールが絶対に欠かせません。その後、科学は進歩をつづけ、歯周病で失った歯を支えている組織を取り戻す再生治療が開発され、また歯周病がただ単にお口の中の病気だけではなく、全身的にも様々な悪影響を与えていることもわかり始めました。

そこで今回は、再生治療の一つである組織再生誘導法および歯周病と全身の病気についてご紹介します。

・**組織再生誘導法**（Guided Tissue Regeneration: GTR法）

GTR法は歯周病により失った歯を支えている組織（歯周組織：歯槽骨、歯根膜、セメント質）を取り戻す手術です。従来の手術法では、失った組織を十分に取り戻すことはできませんでしたが、メンブレン（遮断膜）と呼ばれる膜を用いることで、歯周組織が再生する環境を整えることができます。再生された組織は時間の経過とともに成熟し、本来の組織と同程度まで成長します。使用するメンブレンは生体適合性に優れており、生体吸収性膜でもあるため、時間とともに体の中で溶けて無くなります。手術自体は歯周外科専用の手術室で

行い、時間は1時間程度かかります。この治療方法は、平成20年4月から健康保険適応になりましたので、患者様の治療の選択肢はさらに広がりました。

・**全身の臓器に悪さをする歯周病**

歯周病は歯周組織を破壊して、歯が抜けてしまうお口の中の病気ですが、それだけではなく、最近では歯周病自体が、全身の臓器に悪さをし、病気を悪化させると考えられています。現在、歯周病が関連する全身の病気は、糖尿病、肥満、心筋梗塞、誤嚥性肺炎、早産などがあげられます。特に糖尿病に関しては、歯周病が改善すると血糖値も改善した報告も多く聞かれるようになりました。このように歯周病治療や歯周病を予防することは、お口の中の健康だけでなく、身体の健康にも役立っています。

・**診療体制**

山本松男教授以下、医局員12名、大学院生16名、非常勤医師4名で診療を行っており、その中には日本歯周病学会認定、指導医/専門医3名、専門医4名、認定医5名が在籍しております。

（助教 滝口 尚）



失った歯周組織
GTR法手術前



再生した歯周組織
GTR法手術後1年

管理課 紹介

管理課って？

管理課とはいったいなんでしょう？よく言われるのは、「縁の下の力持ち」とか「何でも屋とか便利屋とか役所のすぐやる課的な課」などです。さて、どれが正解でしょう。どれもが、あたっています。目立たないようですが、病院で起きていることについて、何らかの形で関わっています。というのは、事務組織の中で医事業務以外は全て管理課が所管するとなっています。その管理課の仕事の範疇には企業で言う総務課・人事課・経理課・営繕課などの業務や大学附属病院としての行政との折衝や臨床研修医関係など多岐にわたっています。

また、辞書で管理と引いてみると、「組織においてある目的を効果的でなおかつ能率的に達成するために組織そのものの維持や発展を図ること」とか「ある決まり事から外れないように統制したり維持したりすること」などと書かれています。

これだけを見ると随分保守的な課だと思われるかも知れませんが、病院の理念である「患者本位の医

療」のもとより良い病院に改善するため日夜努力もしています。もともと病院での医療とは患者さんと医療者が信頼関係を築いて共に協力し「病」にあたることを言いますが、ともすれば人と人ですから感情面や言葉の行き違いにより、苦情に発展することがあります。

また、当院は開院以来30数年を経過しておりますので、施設設備でもご不満な点もあるでしょう。こういった患者さんの言葉一つ一つに耳を傾け問題や不満を解決するのも管理課の仕事です。安全で安心な医療を提供する当院の下支えをしているのが管理課です。というやはり「縁の下の力持ち」が一番的を射ているようです。

事務長・管理課長兼務 荒木田 和生



歯科医療最前線:「超音波診断装置で舌の動きを見ながら発音訓練ができます」

口腔リハビリテーション科 言語聴覚士 武井良子

超音波診断装置による検査(エコー検査)というと、お腹に機器をあてて体の中の病気の診断をしたり、妊婦さんのお腹の赤ちゃんの様子を確認する時に使われることをご存じの方は多いと思います。それでは、超音波診断装置でおしゃべりをしたり食べたりするときの舌の動きも観察できることはご存じでしょうか？

発音障害の診断は、歯科医師がお口の中の病気や形態異常をチェックし、ことばの専門家の言語聴覚士が発音を耳で聞いて判定します。発音障害は、発音するときの舌の使い方に問題がある場合が多く、上手な発音を身につけるためには、正しい舌運動を学ぶ必要があります。しかし、発音をしているときの舌運動は、唇や歯に邪魔されてしまいよく見えません。昭和大学歯科病院口腔リハビリテーション科では、これまで行われていた一般的な発音検査に加えて、超音波診断装置(図1)を利用した舌運動の観察を行っています。



図1 超音波診断装置

超音波診断装置にはさまざまな利点があります。まず、超音波診断装置はレントゲンと違い放射線による被曝の問題がないので、人体にほとんど悪影響を及ぼしません。検査に伴う痛みもありませんので、安心して検査を受けていただくことができます。また、短時間で簡単に検査ができ、検査をしながらその場で舌の動きを確認することができます。

あごの下に超音波診断装置の探触子をあてた状態で発音をすると、舌の動きを観察することができます(図2、3)。発音をするときに舌がどのように動いているのかを患者様にもその場で確認していただけるので、「舌のどの部分の動きを改善すればよいのかがはっきりとわかるので、舌のトレーニングのイメージがつかみやすい」と好

評です。また、訓練前、訓練中、訓練後と検査を行うことで、誤った舌の動きから正しい舌の動きに変化していく様子も確認できるので、患者様にトレーニングの効果を実感していただくことができます。

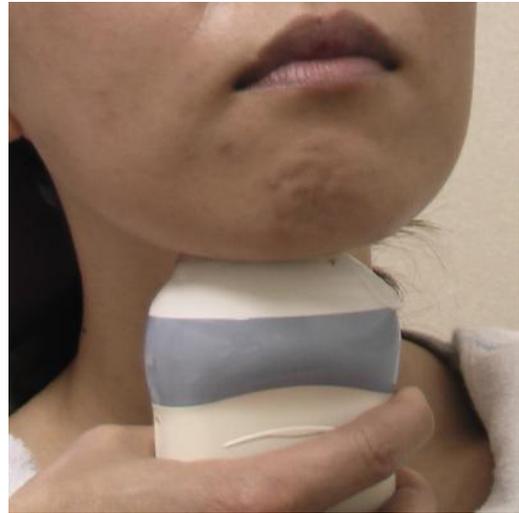


図2 あごの下に探触子をあてて検査を行う

「た」発音時の舌の3D超音波画像

前額像: 正面から見る 矢状断像: 横から見る
舌先が動き、タ行に聞こえる

正常人
00:57:51:68
舌の中央がへこむ

発音障害の状態
舌の中央が盛り上がる 舌の中央が盛り上がり、力行に近く聞こえる

図3 「た」発音時の舌の3D超音波画像では、発音障害(口蓋化構音)と正常人とは異なった舌の動きが観察される。

口腔リハビリテーション科では、お口の中に病気がないにもかかわらず、子どもの頃からの発音の「くせ」が治らずに定着してしまった機能性構音障害という発音障害の方の治療を多く行っています。特に「き」「し」「ち」などのイ列音を発音するときなどに舌を横にずらして口の真ん中ではなく横から息を出して発音する側音化構音と呼ばれる発音障害の方が多くいらっしゃいます。このような方は発音時に舌が左右非対称な運動をしています。超

音波診断装置を利用することによって、舌運動の左右差を確認することができます(図4)。側音化構音は、自然改善することが少なく大人になっても悩んでいる方が多いのですが、訓練を行っている施設が限られているのが現状です。超音波診断装置による診断を行うことで、より短期間で治療効果の高い訓練を行うことを私たちは目指しています。



医事課 紹介

医事課の主な業務は、初診・再診の受付、カルテの作成管理、医療費のご請求に関する業務、患者様からのご相談対応などがあげられます。これらの業務に専任職員と派遣職員が協力して従事しております。

医事課としてよく患者様からお叱りをいただくのは、会計窓口での待ち時間の長さについてであります。このことについては、鋭意電子情報化を推進して、1日も早く待ち時間の無い環境を整備したいと考えており、それまでの間、現状の機器及び人員で、できる限り作業効率等を向上させ、患者様の待ち時間を短縮したいと思います。

今後とも、患者様をはじめ教職員の皆様方にご迷惑・ご負担をお掛けすることと存じますが、医事課職員一同が協力して少しでも改善を図れる様に心がけて努力してまいりますので、温かくご協力いただけますようお願いいたします。

医事課長 久米 徳明



「き」発音時の超音波前額断面像

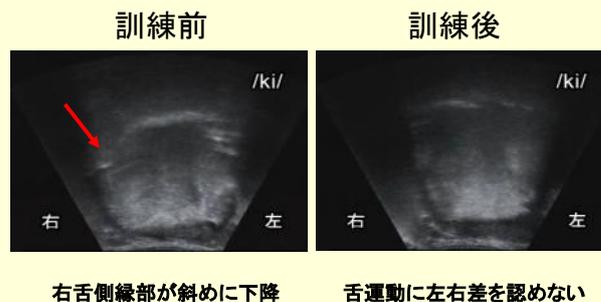


図4 超音波診断装置による側音化構音の訓練前後の舌運動評価

編集後記

あっという間に本年も終わりを告げようとしています。

今年もいろいろありました。2月のバンクーバーオリンピックでは浅田真央選手の惜しかった銀メダル(というかキム・ヨナ選手が完璧でした)、5月には石川遼選手が18ホールの世界ツアー最少ストローク58をマーク、6月にはサッカーワールドカップでサムライジャパンが“不屈のライオン”カメルーンを破り見事予選突破、あれー冬季オリンピックって今年だったっけ?・・長野オリンピックのジャンプの原田選手の方がずっと記憶が鮮明に残っているけど、えーっそれは12年も前なの? これが年取るってことか…それにしても編集後記ってスポーツばかり。来年こそは医療の話題を多くしたいと思います。

皆様良いお年をお迎え下さい。

(K.T)

